

# 心豊かな世代が育つ

## 童話の里づくり

416

—シリーズ— あなたの人権・わたしの人権

### 『命』の学習をこつこつ

八幡小学校 5年

平井 さくら

四年生の三学期、「二分の一人成人式」の学習で自分史を作りました。

私が生まれたときのことをお母さんにくわしく聞きました。

お母さんは、予定日を一週間過ぎたころ、破水をしたそうです。

薬を入れて、生まれてくるようにしたけど、やっぱり生まれなくて、結局、帝王切開で私を産んだそうです。

私を産むためにお腹を切ったと聞いて、とっても痛かっただろうなと思います。

でも、がんばってくれたおかげで、私はお母さんに会うことができました。

五ヶ月目には、高熱を出して大分や別府の病院を回ったそうです。

五歳になると、私はアレルギー紫斑病という病気になりました。

足が痛くなり、歩けなくなつて一ヶ月入院しました。

お母さんは、心配で心配でたまらなかつたと言っていました。ずっと私をおんぶして、治るのを祈っていました。

あまり覚えていないけど、たくさん心配をかけてきたんだと思いました。

学校で、「ちひろの木」を学習しました。

ちひろさんは、私が入学するずっと前、八幡小学校の四年生の時に、病気でなくなつたそうです。

先生がちひろさんのお母さんからあずかってくれたちひろさんの写真や日記を見せてくれました。

ちひろさんが書いた手紙も読んでくれました。

ちひろさんは、病気で苦しいのにいつも笑顔でがんばっていたと聞き

驚きました。

周りの人を悲しませないようにしていたんだと思います。

とても心のやさしい女の子だったんだなと思いました。

私は、いやなことがあると、泣いたり、おこりんぼうになったりします。そんな自分がちよつとはずかしくなりました。

助産婦をしている瀬戸さんと『命』の学習もしました。

『命』は、〇・２ミリから始まることや、三億個の命のもとの中のたった一つだったことを知りました。生まれてこないまま死んでしまう命もあるそうです。

私が生きているのは、きせきなのかもしれないと思いました。

同時に、大切に育ててくれたお父さんやお母さんがいたからだと思ってきました。

うれしくて、ありがとうの気持ちでいっぱいになりました。

時々テレビで自殺をした人の話を見ることがあります。

とてもつらいことがあったり、生きていくのがいやになったりしたのかもしれないが、自分から命を捨てるのは、もつたないと思います。生んでくれたお母さんや育ててく

れた家族が悲しむと思います。

もし私のまわりにそんな人がいたら、助けてあげたいと思います。話を聞いて、どうしたらいいか、いっしょに考えたいです。

「さくら」という名前は、桜の花のようにみんなに愛される人になってほしい、やさしい人になってほしいと願ってつけてくれたそうです。

私は、自分のことだけでなく、まわりの人の気持ちも考えられるやさしい人になりたいです。

この人権作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。また、みなさんの投稿もお待ちしています。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを、二〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して(匿名可)、玖珠町教育委員会社会教育課「あなたの人権・わたしの人権」までお届けください。

